

西和賀高校 × ユキノチカラ

魅力発見ラボ

活動レポート 2022.夏編

ユキノチカラ



西高生たちが
まちの魅力を
さがします！

岩手県西和賀町 西和賀デザインプロジェクトPR紙「ユキノチカラ新聞」魅力発見ラボ特別号



ユキノチカラ & 「魅力発見ラボ」ってなあに？

岩手県と秋田県の県境に位置し、奥羽山脈のふもとに広がる西和賀町は、岩手県屈指の豪雪地帯。一年間のほぼ3分の1が雪に覆われます。町の人たちにとって、雪はときには厄介者ですが、一方で、豊富な雪解け水となって山の幸を育て、農作物を貯蔵する「室」になるなど、大きな財産でもあります。

そこで町では2015年、この雪を「チカラ」に変えて魅力の発見・発信につなげようと、地域ブランド「ユキノチカラ」を創設。町内の事業者と県内のデザイナーによる商品づくり、販売イベント、広報活動などを行ってきました。2019年には、町内の13の事業者でユキノチカラプロジェクト協議会を結成し、活動を継続しています。

「魅力発見ラボ」は、そのユキノチカラプロジェクト協議会と西和賀高校、西和賀町が、今年度から取り組む社会学習プログラム。具体的には、西和賀高校の生徒が、町内の事業者や県内のデザイナーと協働しながら町の魅力を発見し、商品の企画・開発・販売、通信アプリ「LINE」のご当地スタンプの制作・販売などに取り組みます。これにより、将来に役立つ力や視点を習得してもらい、同校の魅力を高めると同時に、町の活性化を図ることが狙いです。

今年度は9人の生徒が参加を希望し、放課後を中心に活動。駒込武志校長先生は「このラボを通して、『主体的な姿勢』『協働力』『探求力』の3つを身につけてほしい」と期待しています。

MISSION.01 リサーチツアーで 西和賀の魅力 掘りおこせ!

雪がたっぷりの冬景色、錦秋湖のキラキラした水辺、季節感あふれる食べ物、親しみやすい町の人々、みんな、あたりまえにある西和賀のあれこれ。「ふつう」と思っていることが、実はちょっとすごいんです。

そこで、まずはラボメンバーが「旅人になったつもり」で、町内リサーチツアーに出かけてみました。

ツアースタート!

錦秋湖のあやめ園&大滝

川尻総合公園のあやめ園は30種以上、約12万本も咲き誇る7月から9月は絶景。

錦秋湖は、昭和41年にできたダム湖。

ダムから流れる水のカーテンは迫力満点! マイナスイオンたっぷりだー。

西和賀のおやつ「ピスタ」って、もっと知りたいよね。

ほっとゆだ駅の販売所

西和賀の特産品といえばワラビ! いろんなおみやげ品を売ってるよ。

豊かな木々のある西和賀に魅力を感じて、仙台から移住した木工家具職人の工藤博さんの一つの商品をつくりあげるまで、試作を何度も重ねているそう。

nokka ショールーム (木工)

西和賀っ子なら、誰もが知っている湯田牛乳の直売店のおいしいコーヒー牛乳でひと休み!

結ハウス

雪国文化研究所

冬には2メートルも積雪する豪雪地帯の西和賀町。雪と戦うのではなく「雪と共存し活用する」発想の転換に驚きです。

深澤晟雄資料館

故深澤晟雄村長は、日本で初めて乳児死亡率ゼロを達成したひと。どんな仕事をしたのか、じっくり伺いました。

館長の計らいで、特別に天然冷蔵庫雪室も体験!

雪国の暮らしに必要な道具がズラリ。

弁天島・碧祥寺博物館

町の公式キャラ「カタワリゴンゴちゃん」を、もっと発信に生かしたいね!

ゴール!

MISSION.02

西和賀を発信する LINEスタンプをつくらう!

デザインって?

魅力を発見したあと、そのすばらしさを伝えるには手段が大事です。今回は「ユキノチカラプロジェクト」の立ち上げから協力いただいているデザイナーの小笠原一志さんと木村敦子さんに特別講義をしてもらいました。

まずは、あらゆるモノやコトが、届きたい相手にどう伝えるかを考えて作られていることについて。身近にある商



品パッケージやトートバッグなどを例に、デザインについて教えてもらいました。

LINEスタンプを作るには?

そして、高校生の身近なツール・LINEスタンプを使って、西和賀をどう発信していくかを話し合いました。講師は、岩手県の観光キャラクター「わんこきょうだい」の生みの親である、グラフィックデザイナー&イラストレーターのおがさわらユウダイさんです。

実際にユウダイさんが取り組んだ、県内33市町村オリジナルキャラ「わらしゃらんど」の制作ストーリーを聞き、「スタンプで西和賀をど



うしたい?」「誰に使う?」「誰に届く?」「県外に出たい?」「人が西和賀とつながるモノになればいい?」と、さまざまな意見が行き交いました。

MISSION.03

魅力を生かした 商品開発が進行中!

デザイン講義や町内リサーチのあとは、いよいよ商品開発! 高校生ならではの発想をカタチにするため、町の事業者さんと一緒に取り組みます。

まちのサポーター 1

佐藤 義さん (111COFFEE 店主)

キャンプ地を併設する焼地台公園。心地よい芝生広場を見渡す管理棟の中に、隠れ家のような自家焙煎コーヒー店「111COFFEE」があります。「高校卒業後に上京後、単身で渡ったカナダで自然の雄大さに魅せられました。でも、実はふるさと



しかし、本格的な焙煎コーヒーを飲むのが初めて、というラボメンバーはやや苦味が苦手。ならば、ここからが逆転の発想です。奥深いコーヒーの香りを生かしつつ湯田牛乳と合わせではどうか、と。オリジナルコーヒーシロップやコーヒーゼリーなど、発想が広がります。

■111COFFEE
西和賀町間木野 24-239-1
焼地台公園管理棟 2F

まちのサポーター 2

瀬川 瑛子さん (ネビラキカフェ 店主)

「ネビラキカフェ」があるのは錦秋湖を見渡す湖畔。ネイチャーガイドを務めるご主人の瀬川然さんと瑛子さんが、住居の一角を改装してオープンしました。春の日差しで木の周辺の雪が解けていく現象「根開き」と、外に向かってまちが開かれていくことを掛け合わせてつけたそう。「この絶景があるから、カフェをやりたい」と瑛子さんと瑛子さん。さて、瑛



「ネビラキカフェ」があるのは錦秋湖を見渡す湖畔。ネイチャーガイドを務めるご主人の瀬川然さんと瑛子さんが、住居の一角を改装してオープンしました。春の日差しで木の周辺の雪が解けていく現象「根開き」と、外に向かってまちが開かれていくことを掛け合わせてつけたそう。「この絶景があるから、カフェをやりたい」と瑛子さんと瑛子さん。さて、瑛



リサーチツアーは、少しでも地域を知るための基本的な観光スポットや施設をめぐって、地域の人からいろんな話を伺いました。西和賀町を代表する観光スポットを見て、雪国文化を探索し、地元に移住した木工作家やカフェ

ここがポイント!



の店主に会いに行ったり、まちのおみやげ商品をチェックしたり。あちこちで、いろんな発見がありました。そして、いよいよ商品開発チームとLINEスタンプチームに分かれて、プロジェクトが始まっています。この続きは「ユキノチカラ」2023春編にて、ご紹介する予定です。魅力発信ラボの奮闘にご期待ください!

■ネビラキカフェ
西和賀町川尻40-57-8
www.nebiraki.world

校長先生が紹介する
「西和賀高校ってこんな学校！」

岩手県立西和賀高等学校
駒込武志 校長

町や町民の皆さんに見守られています



西和賀高校のキャッチフレーズは「一人ひとりが主役」。1学年の定員が40名という小さな学校なので、先生たちの目が生徒一人ひとりに行き届いている。つまり、勉強、クラブ活動、地域貢献活動などさまざまな場面で一人ひとりが主役になれるよう応援します、という想いを込めたものです。

生徒一人ひとりに目を向けているのは、先生たちだけではありません。西和賀町の人たちも、町で唯一の高校である西和賀高校を大切に思い、生徒たちを見守ってくれています。生徒や学校に町からさまざまな経済支援があることから、町や町の人たち

町による経済支援

- 1 町内バスの利用料無料
- 2 予備校講師による課外授業など無料（公営塾事業）
- 3 模擬試験料、各種検定料の補助
- 4 西和賀町外からの入学者への下宿費用・学生寮費用の補助
- 5 希望者にランチのおかずの提供（自己負担額1食150円／主食は持参）

西和賀高校の特色

数学と英語は習熟度別クラスに分かれて学習。

マンツーマンの指導や体験型キャリアなど、授業以外の学びが充実。

各種検定の受験料を補助するなど資格取得を支援。

部活動や地域貢献活動で個性を活かし、自立心を育成。

ちの深い愛情を感じられます。

西和賀高校には生徒たちが活躍できる校内活動がいろいろありますが、特に特徴的なものが、「いのち輝く百年創造塾」です。西和賀町と連携した、町の課題解決や活性化などに関する取組みで、「自主独立の道行かん」の校訓のもと、自ら考え発信する力を身につけることを目指しています。

また、県外からの入学希望者も募集しており、旧温泉旅館を活用した学生寮も用意しています。四季折々の自然を体感できるこの町で、西高ならではの学校生活を一緒に楽しみませんか。



私たちが「魅力発見ラボ」を企画・運営しています

ユキノチカラプロジェクト協議会
事務局・ブランドマネージャー
加藤紗栄さん

ユキノチカラプロジェクト協議会は、2019年に町内の13の事業者が結成した団体です。以来、「ユキノチカラ」ブランドの商品の販売イベントや商談会への出席、SNSやメディアを通じての広報などを中心に活動しています。

振興を目的に設立したため、これまでそうした分野での活動がほとんどでしたが、西和賀高校、西和賀町教育委員会と協力し、今年度から「魅力発見ラボ」の企画・運営を行うことになりました。活動が教育分野にまで広がったことに大きな意義を感じるとともに、ユキノチカラブランドが定着してきた証なのかなとうれしく思っています。

私たちが考える、「魅力発見ラボ」のゴールは2つ。一つは、アイデアを形にするプ



「ユキノチカラ」ブランドの豊富な商品たち

生徒たちが将来、地域づくりの仲間になるといいな！

ロセスを学び、創造力を養ってもらおう。もう一つは、町の人たちと関わることで、「西和賀っておもしろい」と感じてもらうこと。そしていつの日か、参加した生徒たちが地域づくりの仲間になることを願っています。



ユキノチカラ
ユキノチカラ新聞
西和賀高校×ユキノチカラ
「魅力発見ラボ」
活動レポート 2022 夏編

【発行】
岩手県立西和賀高校
西和賀町
ユキノチカラプロジェクト協議会

【デザイン・編集】
木村敦子
関山紗輝

ロゴマークデザイン / 小笠原雄大

【サポートメンバー】
北上信用金庫
岩手ダイアログ
西和賀商工会女性部

【事務局】
ユキノチカラプロジェクト協議会
https://yukino-chikara.com

発行日 / 2022年9月